

イチゴ栽培の農薬と天敵のベストミックス防除体系の確立

- 実施期間：令和6～9年度
- 担当部署：病理昆虫部
- 区分：地域密着型研究・県単

○研究内容

イチゴの栽培では各種の害虫に薬剤抵抗性が発達し、化学農薬に依存した防除は限界に達しています。天敵製剤を基軸として化学農薬を補助的に使用する防除法の開発・普及をすすめています。天敵を有効に活用できていない事例や、薬剤感受性が低下した薬剤を使用し散布回数が不要に多くなるケースがみられます。本研究では、主要害虫のヒラズハナアザミウマを対象として、近年登録された天敵製剤の使用技術を開発するとともに、農薬の感受性検定を行い、効果の高い薬剤を選抜します。さらに、感受性が短期間で低下するハダニ類でも薬剤検定を行い、天敵製剤と化学農薬を合理的かつ効率的に組み合わせたイチゴ害虫IPMを構築し、有用性を検証します。

背景と課題

化学農薬への抵抗性が発達した害虫の増加

農薬の再評価制度 使用時期の制限や新農薬の開発遅延など

みどりの食料システム戦略 化学農薬使用量50%削減 有機農業面積25%

化学農薬の効率的な利用と天敵の活用による害虫管理技術の開発は喫緊の課題！



研究内容

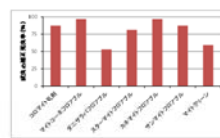
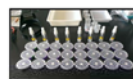
1) ヒラズハナアザミウマを対象とした天敵製剤の使用法の確立

- ・2～3種のアザミウマの天敵
- ・発生程度、放飼量、開始時期を検討



2) アザミウマ、ハダニに対する高効果農薬の選定

- ・県内各地域からヒラズハナアザミウマ、ナミハダニを採取
- ・数種の薬剤を対象に薬剤感受性検定を実施



3) イチゴの害虫総合防除体系の構築と検証

①天敵

- ・有望な天敵を選定
- ・放飼時期・方法の解明

×

②有効薬剤の選抜

- ・各地域の感受性把握
- ・散布時期と天敵との相性

⇒

検証

- ・被害程度
- ・省力性
- ・作業分散

